

平成元年 (1990年)	<p>会長に石本良司氏、副会長こ毘野昭氏、監事に中浜清輝氏が就任。          春季県大会の出場枠数を14校から21校に拡大。          第71回全国高校野球選手権岩手大会では盛岡三が優勝、2度目の甲子園出場を果たす。          秋季東北大会が盛岡で開催され、盛岡工業がベスト4へ進出。</p>
平成2年	<p>会長に戸羽親雄氏事務局長に花井裕一氏が就任。          7月6日岩手県高野連創立40周年記念式典を行い、記念講演会、祝賀会を開催する。記念誌「熱球II」を発行。          第72回全国高校野球選手権岩手大会では花巻東が優勝し、2度目の甲子園出場を果たす。          岩手大会中は降雨に悩まされ、4日間の日程延長となり、設定した準決勝戦前日の休養日も取ることができず。準々決勝の麻生一関対一関商工の試合は延長18回2-2の引き分けとなり翌日再試合を行うも、またしても4-4のまま延長となり、12回6-4で麻生一関がからくも勝利する。熱闘30イニングに及ぶ大一番であった。          秋季東北大会において一関商工がベスト4に進出。第63回の選抜大会補欠校に選ばれた。          岩泉田野畑分校の軟式から硬式への登録替により、硬式加盟校89校、軟式11校となる。</p>
平成3年	<p>会長に千葉仁氏、副会長に遠藤弘氏、伊東義一氏、石川景三氏、監事に東久氏、浪岡真雄の各氏が就任。          春季東北大会で一関商工が準優勝。          第73回全国高校野球選手権岩手大会の抽選方法を準フリー方式とし、球場検討委員会を設置する。大会では専大北上が初優勝し、全国大会において村野工業を3-2で下し2回戦へ進んだ。          秋季東北大会で宮古が準優勝。6月、花巻で東北地区審判講習会が実施され、日本高野連審判規則委員の三宅、相沢、桂の三氏の指導を受ける。          花巻南が新規加盟し、硬式加盟校90校となる。</p>
平成4年	<p>副会長に岩淵守氏、理事長に小川隆弘が就任。          軽米を久慈地区から福岡地区に地区替をする。          第64回全国選抜高校野球大会に出場した宮古は星陵と対戦し強打者松井に2本のホームランを打たれ9-3で敗退する。          春季東北大会、軟式奥羽大会が本県会場で行なわれた。          春日部共栄を迎えて招待試合を遠野球場で行なう。          第74回全国高校野球選手権岩手大会の決勝戦一関商工対専大北上は決勝戦初の延長戦となる。10回5-4で一関商工が優勝。全国大会の1回戦、山口鴻城に5-1と勝利し2回戦の神港学園に11-4で敗れた。</p>
平成5年	<p>副会長に高橋司氏、監事に橋本毅一氏が就任。          第75回全国高等学校野球選手権大会は記念大会。開会式において初代理事長、故松嶋真蔵氏を顕彰。          大会キャッチフレーズを公募、「白球のもと75たびの夏に輝け岩手の球児」（福岡高校 大瀧美苗さんの作品）が入選、表彰する。</p>
平成6年	<p>副会長に本間良樹氏、松尾昭明氏、監事に菊池定一氏、事務局長に千葉春夫の各氏が就任。          岩手県高野連の努力目標として「パワーベースボール」を掲げる。夏の選手権大会抽選会の会場を教育会館から都南文化会館に変更。          第76回全国高等学校野球選手権大会では盛岡四高が初優勝、全国大会でも2回戦に進んだ。故藤原良二審判長の功績を顕彰。          秋季県大会の準決勝と決勝を同日に行わず、分離して日程を5日間に伸ばした。日本高野連の田名部裕和事務局長、東大の平野裕一監督を講師に迎え、指導者研修会を花巻で実施。          登録料を10000円に値上げし、選手権大会の参加料10000円を徴収する。</p>
平成7年	<p>会長に村上正男氏、副会長に佐藤基氏、理事長に中里四志雄氏が就任。          日米親善試合が盛岡で行なわれ、岩手代表の専大北上が対アメリカ選抜チームに善戦、10対10で引き分ける。日本高野連から牧野直隆会長と田名部裕和事務局長が来盛。          第77回全国高等学校野球選手権大会では盛岡大附属が初優勝。          秋の東北大会が岩手で行なわれ、決勝に進んだ釜石南が第68回全国選抜高校野球大会に出場した。春季県大会の日程も5日間とした。</p>
平成8年	<p>副会長に菅原新氏、監事に多田正夫氏が就任。          秋季県大会の出場校を1校ふやし22校とする。秋季東北大会への出場校が各県3校づつとなったことに伴ない、第三位決定戦を実施。          夏の選手権岩手大会では盛岡大附が2連覇を飾る。</p>
平成9年	<p>会長に高橋馨氏、副会長に蒲生知久平氏、監事に熊谷守の各氏が就任。          福岡支部の名称を二戸支部と変更。大会参加規定の一部が改正され、副部長（コーチ）及記録員のベンチ入りが認められた。ボール、ストライクのコール順の変更、タイムの回数制限が実施された。          第79回選手権岩手大会の会場の一つを盛岡市営球場から滝沢村総合運動公園野球場に変更した。この大会で、専大北上が6年振り2度目の優勝を飾り、全国大会では地元大阪代表の履正社を2-1で降し、県勢として23勝目をあげた。専大北上は国体にも出場して、第三位となる。</p>
平成10年	<p>副会長に鈴木白氏、富澤正一氏、監事に渡邊利光氏が就任。          第80回全国高校野球大会は記念大会であり、岩手大会の開会式では司会を女子生徒が行い、プラカードは盛岡白百合学園高校の生徒が担当した。          専大北上が2年連続優勝を飾り、全国大会では広島県代表の如水館と対戦、7回裏二死6-6のまま降雨コールドゲームとなり、翌日再試合を行ない10-5で敗れる。          軟式野球でも専大北上が全国大会で2回戦へ進み、秋の国体にも出場した。</p>

平成11年	<p>第81回大会では、春秋県大会に続き、盛岡中央高が初優勝を飾る。甲子園では福知山商（京都府）に6-2で敗れた。軟式選手権大会では盛岡一高が奥羽大会で初優勝を飾り、全国大会に出場。</p> <p>8月、東北選抜チームがハワイ遠征親善試合を行い、岩手から伊藤聖（盛四）、小野寺啓真（大船渡）、松岡陽介（一関一）の三選手が選ばれ随員として中里四志雄理事長が参加した。（4勝1分）</p> <p>10月、全日本野球会議主催指導者講習会が盛岡で開催された。</p> <p>役員改選が行われ、高橋警会長の後任に木村昇氏（盛工）、熊谷守監事の後任に佐々木巧氏（花北商）が選出され、他は再任。</p> <p>加盟校 硬90 軟10</p>
平成12年	<p>11月17日に連盟創立50周年記念式典を県民会館で挙行し記念講演で、『甲子園の心を求めて』と題して佐藤道輔氏が講演。また、連盟役員章を制定し、3月には記念誌『熱球・・・岩手の高校野球のあゆみ50年史』を発刊した。</p> <p>第82大会開会式では連盟創立50周年記念として、岩手女子高生が合唱隊として大会に花を添え、専大北上高が2年ぶり4回目の優勝を飾った。甲子園では、高知代表の明德義塾高と対戦し3-0で敗れた。軟式でも専大北上高が奥羽大会を制し、2年ぶり2回目の全国大会出場となったが兵庫代表の育英高に5-0で敗れた。</p> <p>今年度から実施された選抜21世紀枠の推薦校として、久慈商業高を推薦した。</p> <p>役員補選が行われ、菅原新副会長の後任に長澤佳彦（一関一）、鈴木白副会長の後任に高橋富男（一戸）、中里四志雄理事長の後任に千葉春夫（盛工）、千葉春夫事務局長の後任に藤澤義昭（盛工）の各氏が選出された。</p> <p>加盟校 硬90 軟10</p>
平成13年	<p>春季東北大会で専大北上高が決勝で学法石川高（福島）を5-4で破り、初優勝。（県勢30年ぶり）第83回大会では、春季県大会に続き盛岡大附高が5年ぶり3回目の優勝をした。甲子園では近江高（滋賀）に4-1と初戦で惜敗した。また、高野連活性化事業として高校生を甲子園研修生として全国大会に派遣した。</p> <p>連盟規約の一部を改正して、強化委員会、記録委員会、審判委員会を設けた。</p> <p>指導者研修会は10月末に花巻球場を会場にして実技講習を中心に行われた。11月には花巻で東日本理事長会議を本県主催で開催した。</p> <p>役員改選が行われ、渡邊利光監事の後任に板橋政志氏（久慈商）が選出され、他は再任。</p> <p>加盟校 硬90 軟10</p>
平成14年	<p>第84回大会では、一関学院高が10年振り5回目の優勝を飾った。</p> <p>甲子園では、1回戦鹿児島代表の樟南高と対戦し、わずか2安打で1-0と勝ち2回戦は、鳴門工（徳島）に5-3で惜敗した。秋の国体にも出場した。秋季東北大会では盛大附高が準優勝し、翌、平成15年第75回選抜大会に推薦され出場、横浜高校に10-0で初戦敗退した。</p> <p>日本高野連の指導で県高野連本部と支部の会計を一本化した。</p> <p>記録委員会より、会報「熱球」を創刊した。</p> <p>役員補選が行われ、木村昇会長の後任に佐藤惇（盛工）、長澤佳彦副会長の後任に畠中祥夫（一関一）、富澤正一副会長の後任に相馬武彦（福岡）の各氏が選出され、他は再任。</p> <p>加盟校 硬89 軟8</p>
平成15年	<p>第85回記念大会は、会場を県営、花巻、雫石、一関、森山、軽米の6球場に拡大。</p> <p>盛大附高が2年ぶり4回目の優勝をした。甲子園では福井商に延長10回8-6で惜敗した。</p> <p>第76回選抜大会に秋季東北大会ベスト4の一関一高が「21世紀枠」で東北地区から推薦され出場した。</p> <p>日本高野連より、イヤープラザコーチで元大船渡工高監督熊谷勉氏、地方大会功労者として奈良憲光氏がそれぞれ表彰された。</p> <p>役員改選が行われ、高橋富男副会長の後任に板橋政志（盛商）、相馬武彦副会長の後任に川村祥平（岩泉）、板橋政志監事の後任に佐々木謙蔵（久慈商）、佐々木巧監事の後任に猪股良壽（金崎）、千葉春夫理事長の後任に香川博（盛工）の各氏が選出され、他は再任。</p> <p>加盟校 硬89 軟8</p>
平成16年	<p>第76回選抜大会に、一関一高が本県初の「21世紀枠」で出場、拓大紅陵に6-0で敗退した。また、東北地区から初めて4校（一般推薦2、21世紀枠1、希望枠1）が出場した。</p> <p>第86回大会は、盛大附高が2年連続5回目の優勝。（準決勝、決勝でスタンドのファールボールをプレゼント。）甲子園では明德義塾に15-2で敗退。</p> <p>春秋県大会の出場校数を2校増やし24校とする。</p> <p>イヤープラザコーチで元黒沢尻工業高監督城澤謙吉氏が表彰された。</p> <p>役員補選が行われ、佐藤惇会長の後任に川原利夫（盛工）、畠中祥夫副会長の後任に内田正好（一関一）の各氏が選出され他は再任。</p> <p>選手権大会の参加料、地区補助金を廃止、65歳以上を無料とする。</p> <p>加盟校 硬87 軟8</p>
平成17年	<p>軟式全国選手権50回記念の永年功労者で専大北上高監督高木敬蔵氏、イヤープラザコーチで元平館高監督矢野清氏がそれぞれ受賞した。</p> <p>第87回大会は、花巻東高が15年振り、3回目の優勝をした。甲子園では樟南（鹿児島）に13-4で敗退。</p> <p>技術研修会では、脇村春夫日本高野連会長が来県、初めて元プロ野球選手（森徹、種茂雅之、村上雅則、阿部健一、池谷公二郎の各氏）を講師として、指導者・生徒を指導していただいた。</p> <p>秋季東北大会ベスト4の一関学院高が第78回選抜大会に「希望枠」で出場。岐阜城北に2-1で惜敗した。</p> <p>岩手高野連が東北高野連事務局を担当、香川理事長が全国理事、選抜選考委員を兼務。役員改選が行われ、板橋政志副会長の後任に三浦雅男氏（大東）、多田正夫監事の後任に大石恭平氏（盛商）が選出され、他は再任。</p> <p>65歳以上のフリーパス券発行。北上翔南高校初参加。</p> <p>加盟校 硬86 軟8</p>

平成18年	<p>第88回大会は、専大北上高校が6年振り5回目の優勝。甲子園では福岡工大城東に4-0で敗退。育成功労賞で、元盛岡北高監督佐々木忠彦氏が表彰された。</p> <p>役員補選が行われ、佐々木謙蔵監事の後任に千葉春夫（雫石）、香川博理事長の後任に藤澤義昭（盛工）、藤澤義昭事務局長の後任に中村明德（盛工）の各氏が選出され、他は再任。</p> <p>前年に続き東北高野連事務局を担当、藤澤理事長が全国理事、選抜選考委員を兼務。</p> <p>秋季県大会出場校を28校とする。</p> <p>加盟校 硬84 軟 8</p>
平成19年	<p>第54回春季東北大会で一関一高が青森山田を5x-0で破り、県勢6年ぶりの優勝。第1回春季東北地区高校軟式野球大会を本県で開催。決勝で一関一高が0-1と羽黒高校（山形）に惜敗。</p> <p>第89回大会で花巻東高が4x-3と専大北上高に逆転サヨナラ勝ち、2年ぶり4回目の優勝。甲子園では新潟明訓に0-1と惜敗した。</p> <p>育成功労賞で元盛岡南高校部長斉藤誠治氏が表彰された。</p> <p>役員改選が行われ、川原利夫会長の後任に池田博男（盛工）、三浦雅男副会長の後任に千葉春夫（雫石）、千葉春夫監事の後任に板宮成悦（千厩）の各氏が選出され、他は再任。</p> <p>地区割検討委員会が設置され、次年度から水北地区を北奥地区、気仙地区・沿岸地区を沿岸南・沿岸北地区と再編改称、紫波総合高校を盛岡地区から花巻地区、前沢高校を一関地区から北奥地区へ編入することを決定。</p> <p>春季県大会の出場校を28校とする。</p> <p>永年高野連の発展に尽力された顧問中里四志雄氏（元理事長）御逝去。</p> <p>加盟校 硬83 軟 8</p>
平成20年	<p>第2回春季軟式東北大会で一関一高が延長11回2x-1で秋田商業を破り初優勝。第90回選手権記念岩手大会は、盛岡大附が延長10回2x-1で盛岡中央にサヨナラ勝ち、4年ぶり6回目の優勝。甲子園では駒大岩見沢(北海道)に3-8xで敗れた。</p> <p>第61回秋季東北大会で花巻東がベスト4となり、第81回選抜大会に推薦された。</p> <p>育成功労賞で元水沢高校監督 高橋光氏、地方大会功労者として故 中里四志雄氏が表彰された。</p> <p>役員補選が行われ、平野清八副会長の後任に山田市雄（一関一）、千葉春夫副会長の後任に三浦宗(久慈東)、猪股良壽監事の後任に佐藤由記男氏(一戸)、藤澤義昭理事長の後任に中村明德(盛工)、中村明德事務局長の後任に田巻晃(盛工)の各氏が選出された。他は再任。</p> <p>本年度より新地区割り実施。</p> <p>永年高野連の発展に尽力された顧問長澤正夫氏(岩手県野球協会会長)、小原房之助氏御逝去。</p> <p>加盟校 硬式79 軟式7</p>
平成21年	<p>第81回選抜大会で花巻東が準優勝。1回戦5x-0鶴川(北海道)、2回戦4x-0明豊(大分)、準々決勝5x-3南陽工(山口)、準決勝5-2利府(宮城)、決勝0-1清峰(長崎)。</p> <p>第56回春季東北大会で盛岡大附が6-3で仙台育英を破り初優勝。</p> <p>第91回選手権岩手大会は花巻東が2x-1で盛岡第一を破り2年振り5回目の優勝。甲子園ではベスト4進出。1回戦8x-5長崎日大、2回戦4x-1横浜隼人、3回戦4x-1東北(宮城)、準々決勝(延長10回)7-6明豊(大分)、準決勝1-11x中京大中京(愛知)。</p> <p>第64回新潟国体に花巻東が出場しベスト4進出。準々決勝6-4中京大中京(愛知)、準決勝2-3都城商(宮崎)。</p> <p>本年度の育成功労賞は、元盛岡農業高校監督立花功氏が8月15日、阪神甲子園球場で表彰された。</p> <p>第62回秋季東北大会決勝で盛岡大附が秋田商業に延長11回0-1xで惜敗。</p> <p>12月23日、盛岡市民文化ホールでプロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」 in 岩手が開催された。</p> <p>役員改選が行われ、池田博男会長の後任に鷹齋文昭(盛工)、川村祥平副会長の後任に香川博(前沢)、板宮成悦監事の後任に新沼良治(大野)の各氏が選出され、他は再任(三浦宗副会長の死去により、後任に新沼良治副会長、新沼良治監事の後任に佐藤利行監事(北上翔南)の両氏が選出された)。</p> <p>永年高野連の発展に尽力された顧問山田陸奥夫氏(元理事長)、三浦宗副会長御逝去。</p> <p>加盟校 硬式75 軟式6</p>
平成22年	<p>第82回選抜大会に盛岡大附が出場。1回戦で中京大中京と対戦し、4-5で敗れる。</p> <p>第4回春季東北地区高等学校軟式野球大会決勝で、専大北上が秋田商業を1-0で破り優勝。</p> <p>第92回選手権岩手大会決勝で一関学院が盛岡大附を8-2で破り2年振り7回目の優勝。甲子園では1回戦、石川県代表の遊学館と対戦し0-11で敗れる。</p> <p>育成功労賞は工藤清人氏受賞し、選手権岩手大会開会式で表彰された。</p> <p>岩手県高等学校野球連盟創立60周年記念式典を12月3日に盛岡市民文化ホール(マリオス)で挙行。講師に鈴木博識氏(元日本大学野球部監督)を招いて記念講演会を実施した。</p> <p>3大会の抽選方法を変更した。春季県大会は1回戦の同地区対戦を回避しないこととした。</p> <p>役員補選が行われ、山田市雄副会長の後任に木村毅一関第一高等学校長を選出。中村明德理事長の後任に田巻晃(盛岡工)、田巻晃事務局長の後任に石田和秀(盛岡工)、事務局次長に柏田信吾(盛岡工)が選出された。</p> <p>加盟校 硬式74 軟式6</p>

<p>平成23年</p>	<p>第58回春季東北地区高等学校野球大会、第5回春季東北地区高等学校軟式野球大会が、東日本大震災のため中止となる。同岩手県大会は、福島・宮城、両県大会が中止となる中、硬式・軟式とも実施した。</p> <p>第93回選手権岩手大会は、決勝で花巻東が盛岡第三を破り2年振り6回目の優勝。甲子園では1回戦、東京代表の帝京高校に7-8え敗れる。</p> <p>育成功労賞は山崎善輝氏が受賞し、岩手の高校球児を激励するため選手権岩手大会開会式に出席された、奥島孝康日本高野連会長から表彰された。</p> <p>第64回秋季東北地区高等学校野球大会で花巻東がベスト4となり、第84回選抜大会に推薦された。</p> <p>平成21年度「夢の向こうに」、22年度「岩手県高野連創立60周年記念事業」のために実施しなかった技術指導研修会を、講師に鈴木博識氏(元日本大学野球部監督)を招いて実施した。</p> <p>役員改選が行われ、鷹嘴文昭会長の後任に佐々木淳(盛岡工業高校校長)、香川博副会長、新沼良治副会長の後任に佐野武徳(盛岡北高校校長)、高橋和夫(大槌高校校長)、佐藤利行監事の後任に川上圭一(黒沢尻工業高校校長)、の各氏が選出された。</p> <p>加盟校 硬式74 軟式6</p>
<p>平成24年</p>	<p>第84回選抜高等学校野球大会に花巻東が出場。1回戦で大阪桐蔭と対戦し、2-9で敗れる。</p> <p>第6回春季東北地区高等学校軟式野球大会は、本県代表校同士の決勝戦となり、一関第一が2-9で専大北上を破り、4年振り2回目の優勝。</p> <p>第94回選手権岩手大会は、決勝で盛岡大附が花巻東を破り、4年振り7回目の優勝。甲子園では1回戦、島根県代表の立正大湘南高校に延長12回の末、4-5で敗れる。</p> <p>育成功労賞は宮田日出雄氏が受賞し、選手権岩手大会開会式で表彰された。</p> <p>第57回軟式選手権北東北大会決勝で、専大北上が秋田商業を3-1で破り、全国大会に出場。1回戦で近畿代表の比叡山高校に延長11回の末、3-4で敗れる。</p> <p>第65回秋季東北地区高等学校野球大会で、盛岡大附が準決勝に進出し、第85回記念選抜高等学校野球大会に神宮枠で推薦された。</p> <p>第24回秋季東北地区高等学校軟式野球大会は、専大北上が決勝で弘前(青森)を5-1で破り、県勢として初の優勝を飾った。</p> <p>役員補選が行われ、佐藤由記男監事、大石恭平監事の後任に岩泉庄一(盛岡市立)、柴田俊浩(福岡)、石田和秀事務局長の後任に眞下徹(盛工)の各氏が選出された。他は再任。</p> <p>加盟校 硬式74 軟式6</p>
<p>平成25年</p>	<p>第85回選抜高等学校野球記念大会に盛岡大附が出場。1回戦で安田学園(東京)を4-3破り、10度目の甲子園で初勝利をあげた。2回戦では敦賀気比(福井)に0-3で敗れる。</p> <p>第60回春季東北地区高等学校野球大会では、盛岡大附が決勝で仙台育英に1-5で敗れて準優勝。第7回春季東北地区高等学校軟式野球大会は岩手県で開催され、一関第一が決勝で弘前工業を3-0で破り、2年連続3度目の優勝。</p> <p>第95回選手権記念岩手大会は、宮古北と西和賀が合同チームを編成したため72チームの参加となり、決勝では花巻東が盛岡大附を破り2年振り7回目の優勝。甲子園では4年振りにベスト4に進出。2回戦9-5彦根東(滋賀)、3回戦7-6済美(愛媛)、準々決勝5-4鳴門(徳島)、準決勝0-2延岡学園(宮崎)。</p> <p>都道府県功労賞は千葉春夫氏、育成功労賞は千葉隆正氏がそれぞれ受賞し、選手権記念岩手大会開会式で表彰された。</p> <p>第25回秋季東北地区高等学校軟式野球大会で、一関第一が決勝で秋田商業に0-2で惜敗し準優勝。</p> <p>春季県大会の出場校数を出場校を32校、秋季県大会の出場校を31校とする。</p> <p>日本高野連登録料10,000円から15000円に値上げ。</p> <p>役員改選が行われ、佐々木淳会長の後任に藤原斉(盛岡工業高校校長)、木村毅副会長、佐野武徳副会長の後任に坂本晋(一関第一高校校長)、中村明德(北上翔南高校校長)、川上圭一監事の後任に佐々木巧(宮古商業高校校長)の各氏を選出。田巻晃理事長の後任に眞下徹(盛岡工)、眞下徹事務局長の後任に佐々木明志(盛岡工)が選出された。他は再任。</p> <p>加盟校 硬式73 軟式6</p>
<p>平成26年</p>	<p>第61回春季東北地区高等学校野球大会は秋田県で開催され、初の県勢同士の決勝戦となり、花巻東が3-0で盛岡第三を破り初優勝。第8回春季東北地区高等学校軟式野球大会は宮城県で開催され、盛岡第一が準決勝で仙台育英(宮城)に1-5で敗れる。</p> <p>第96回全国高等学校野球選手権岩手大会は、決勝で盛岡大附が花巻東を破り2年ぶり8回目の優勝。甲子園では優勝候補の東海大相模(神奈川)を4-3で降し、3回戦では1-16で敦賀気比(福井)に敗れた。</p> <p>育成功労賞は阿部由章氏が受賞し、選手権岩手大会開会式で表彰された。</p> <p>第26回秋季東北地区高等学校軟式野球大会は秋田県で開催され、専大北上が準決勝で仙台商業に2-4で敗れた。</p> <p>第67回秋季東北地区高等学校野球大会は宮城県で開催され、花巻東が2回戦の東日大昌平・3回戦の大曲工業と2試合連続で延長15回引き分け再試合を演じ、大曲工業に敗れた。役員に変更なし。</p> <p>加盟校 硬式73 軟式6</p>

平成27年

第62回春季東北大会は福島県で開催され、今大会より9回同点の場合タイブレーク(無死1・2塁、選択打順)が導入された。県勢は準決勝に進んだ一関学院と花巻東がともにタイブレークで敗れた。第9回春季東北地区高等学校軟式野球大会は秋田県で開催され、専大北上が準決勝で能代(秋田)に0-2で敗れる。

第97回全国高等学校野球選手権岩手大会は、決勝で花巻東が一関学院を延長13回の末9-8で破り2年ぶり8回目の優勝。甲子園では1回戦で専大松戸(千葉)を4-2で降し、2回戦では選抜優勝校の敦賀気比(福井)を8-3で破った。続く3回戦では準優勝の仙台育英(宮城)に3-4で惜敗した。

育成功労賞は小野清志氏が受賞し、阪神甲子園球場で表彰された。

第27回秋季東北地区高等学校軟式野球大会はいわて国体リハーサル大会として岩手県山田町で開催され、専大北上が決勝で秋田商業(秋田)に0-1で惜敗したものの準優勝に輝いた。

第68回秋季東北地区高等学校野球大会は青森県で開催され、盛岡大附と一関学院が準決勝に駒を進めたがともに青森県勢に敗れ、選抜大会出場はならなかった。岩手県大会準優勝の釜石は東北(宮城)に延長12回の末2-3で敗れたものの、第88回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」東北地区推薦校となり、21世紀枠特別選考委員会にて満場一致で選出された。

第88回選抜高等学校野球大会では、釜石高校が同じ21世紀枠で選出された小豆島(香川)と1回戦で対戦し、2-1で勝利して県民のみならず東北の被災地に大きな感動をもたらした。続く2回戦では滋賀学園(滋賀)に1-9で敗れたが、釜石高校応援団は高い応援技術と一体感が評価され優秀賞を受賞した。

東日本大震災津波後、沿岸3地区で続いていた地区予選無料措置を終了し、入場料を徴収した。宮古北高校が部員なしを理由に加盟を見合わせ、硬式加盟校が72校になる。

役員改選が行われ、藤原斉会長の後任に眞岩一夫(盛岡工業高校校長)、高橋和夫副会長、中村明德副会長の後任に福士猛夫(黒沢尻工業高校校長)、藤澤義昭(沼宮内高校校長)の各氏が選出された。

加盟校 硬式72 軟式6